

# 養父市立関宮学園 令和2年度 学校評価

令和3年2月22日

## 1 学校教育目標

夢や目標を持ち、自ら学び、こころ豊かでたくましい児童生徒の育成

## 2 重点目標

- ①義務教育学校の特性を最大限に生かした学校づくりを進める。
- ②確かな学力を定着させるとともに自主的に活動する態度を養う。
- ③道徳教育や体験教育を充実し「心の教育」を推進する。
- ④教職員の資質・能力の向上を図る。
- ⑤学校・家庭・地域が連携し、生きる力を育む環境づくりに努める。

## 4 学校評価の実施方法及び総合的な学校関係者評価

- 実施の方法
- ・10月及び2月に全職員による学校自己評価を実施
  - ・1月に保護者にアンケートを実施
  - ・2月22日に学校運営協議会で学校関係者評価を実施
- 総合的な学校関係者評価
- 但馬初の義務教育学校としてスタートを切るだけでも、莫大な労力がいるところに、新型コロナウイルス感染症に関わる制約があり大変であったと思われるが、児童生徒が生き生きと学校生活をおくっていることが伝わってくる。今後も義務教育学校として、新しい教育を推進していくことを望む。

## 3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況及び改善の方策等
学校運営教育活動	義務教育学校としての学校運営	B	○児童生徒会活動や運動会などの行事を通して、一つの学校としての意識が高まった。 ○前期・後期課程の職員が校内研修などで意見交換を行うことで、小学校教育・中学校教育の枠を超え、授業改善や生活指導に取り組めた。 △義務教育学校として、9年間を見据えた系統的なカリキュラムの構築していく。
	開かれた学校づくりの推進	C	○新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、保護者や地域の方と関わる行事等を中止ではなく規模を縮小しながらでも行えた事は良かった。 ○学校だよりや学級通信等で、学校の様子を伝えることができた。 △ホームページによる、発信が不十分であった。 △義務教育学校として、地域に根ざした学校づくりを、学校、地域が一体となって進める。
	危機管理体制の整備	B	○コロナ禍であるが、感染予防に努めながら1,17集会と避難訓練を行えた。 ○保護者メール配信システムの活用が有効であった。 △緊急事態宣言により、年度当初に臨時休業となってしまう、避難訓練、引き渡し訓練が行えなかった。
	生活指導	A	○生活アンケートや個人面談等で、いじめの未然防止と早期発見につながった。 ○生活指導日誌を前期・後期課程全職員に配信することにより、共通理解が図られ子どもへの対応ができた。 ○小中学校が一つになったことで、児童生徒の情報を多く得ることができ、保護者との連携がスムーズになった。
	教職員の資質向上 (研修、体罰・ハラスメント防止)	A	○前期・後期課程の教職員と一緒に会議や研修を行うことで、授業や生活指導について多面的に考えることができた。 ○体罰・ハラスメント防止について研修等を継続的に行っている。
	業務改善・勤務時間の適正化	A	○定時退勤日の完全実施ができています。 ○平日1日、土日どちらか1日のノー部活デーを完全実施できている。 △普段の退勤時間も早くなっているが、家庭に持ち帰って仕事をする人が多くなっている職員もいる。
教科指導	自ら学び、自ら考える力の育成	B	○自主研修、校内研修により、授業改善に取組み、児童生徒の思考力や表現力が高められてきた。 △感染予防の関係で、ペア学習やグループ学習など対話的な学習を行う機会が減っている。
	基礎の定着と個に応じた学習指導	B	○T T (同室複数) 指導や、少人数指導により個に応じた指導が行えている。 △義務教育学校となり、前期・後期課程の枠を超え、系統性を持って教科等を指導する体制を構築することで、より学力の定着・向上につながる。
	道徳教育	B	○臨時休業があったが、年間指導計画に基づいた授業を行うことができた。 △グループ研修では取り組んだが、全体研修で道徳教育の研修を行うことができなかった。
	外国語教育	A	○前期・後期課程で授業研究を行い、前期課程の外国語教育の指導力が向上した。 ○一つの学校、一つの職員室になったことで、ALTとの連携がスムーズになった。
	9年間を見通した教育の推進	C	○開校初年度、コロナ禍という環境の中で、手探りながら小学校・中学校の教育課程をつなぎ合わせることに挑戦している。 △9年間の教育課程を創り上げる、具体的な方針(検討委員会等)が必要である。
課題教育	人権教育	B	○身近な体験から、人権意識の高揚が図られて。特に今回の新型コロナウイルス感染症に関して、全学年で授業を行うことができた。
	特別支援教育	B	○校内教育支援委員会のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われた。 ○特別支援学校から講師を招聘して、校内研修を行うことができた。
	キャリア教育	B	○児童生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容を実施することができた。 ○前期課程・後期課程の「そうあんの日」の取組みを再検討し継続性・系統性を持たせた。 △前期課程と後期課程の内容に、より系統性を持たせる必要がある。
	健康教育	B	○新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、正しい知識を身につけ予防に取り組ませることができた。 ○歯磨き指導や、睡眠指導(ねるねるウィーク)に取り組むことができた。
	食に関する教育	B	○各学年の発達段階に応じた、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成を学校栄養教諭などの指導等から行うことができた。 △感染予防と共食の理念をどう両立させるかが課題である。
	情報教育	B	○教育活動全般においてICT機器を適切且つ効果的に活用することができた。 △各学年で個別に行われている情報モラルに関する学習を、より計画的に進める必要がある。 △GIGAスクール構想(一人一台のタブレットを使用する学習)に向けての研修を進める。

## 5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校関係者評価
<p>・職員室が1つとなり、それぞれ異なる課程を経て資格を取得した、旧小中学校教員各位がそれぞれの視点で身近に、互いに意見を出し合うことは非常に効果的と考える。また、互いの良いアイデア、良い手法を活かした、横展開はまさに今回の義務教育学校化における大きな利点の一つと考える。</p> <p>・義務教育学校として、保護者や地域に発信するためにも、ホームページを一新する必要がある。</p> <p>・小中一貫のメリットは、デメリットを大きく上回ると感じる。1年生から9年生という幅広い年齢層が同じ学校で生活することにより、自分の成長を感じたり、目標とする姿を見ることで、人格形成に繋がっていると思う。</p> <p>・出合地区の土人形作りは、ふるさと教育の題材になるのではないかと思う。</p> <p>・児童生徒に過度の負担とならないように取り組みやすいカリキュラムからスタートしたことが良かったと感じる。</p> <p>・今後も前期課程、後期課程の枠にとらわれず、専門性の高い教育を進めていって欲しい。</p> <p>・6年生におけるリーダーシップの育成について留意されていることは、事前に小中一貫のデメリットがしっかり予測評価されていると考える。</p> <p>・先生方の労働環境も大切と考える。世の中に合った、ノー残業デーの拡大やノーワークノーペイの遵守を行っていただきたい。大変な業務、大きな職責をお持ちかとは思いますが、持ち帰り仕事はすべきでない。工夫と創出により一労働者としても心身共に健康でいて頂きたい。</p> <p>・9年間を見通した教育を行う中で、前期課程と後期課程の児童生徒が、一緒に行う方が効果があるのか、別々に行う方が成長に繋がるのかを見極めて進める必要がある。</p> <p>・義務教育学校として9年間を見据えた教育を進めるためには、学校だけの頑張りだけでは難しく、市からの支援も求めていく必要があると思う。</p> <p>・バス通学が多く、運動能力の低下が心配される。体力向上にも努める必要がある。</p> <p>・校区にスキー場がある学校で、スキー教室を継続していくことは良いことだと思う。ただ、保護者の負担を軽減する方法を考える必要も感じる。ジュニア用のパッチテストを導入し、スキー技術向上に向けて意欲づけを図ってみてはどうか。</p> <p>・外国語教育の評価がAであるが、今後関宮学園(義務教育学校)を卒業したら、受験英語だけではなく、普段の会話ぐらいは英語でできるようになるなど目に見える力をつけさせて欲しい。</p>